

令和4年度 第5回摂津市立千里丘小学校学校協議会 要点録

令和4年12月16日(金) 18:30~20:00

於:千里丘小学校 東棟1階会議室

記録:紅林 陽子(事務局:本校教頭)

出席委員:中田 康之・以登田 毅・佐野 英和・藤浦 清美・前馬 晋策・寺田 洋子・橋爪 恵子・武友 加代子
河合 隆之

欠席委員:木下 さひ子・谷口 浩之

(敬称略)

学校出席者:校長 撰田 裕美・教頭 紅林 陽子

1. 校長より挨拶

昨日ぐらいから急に冷えてきた。感染者が少しずつ増えてきている状況があり、職員にも同じく感染が広がってきている。教育活動を進めるための体制を組むのが大変な状況が生じることもある。幸い、学級閉鎖などには至っていない。市内全体で言うと、以前は安威川以南で感染者が多かったが、今は安威川以北で感染者が多くなっている状態とのことだ。あと1週間で2学期も終わり。無事終わられるように全力を尽くしたい。

本日は次第のとおり進めるが、“その他”において来年度から始まる学校の増改築について、校長としての意見をお伝えするとともに教育政策課から説明を行う予定。

2. 学校の様子（前回の協議会から）

- ・ 10月13日 稲刈り体験（5年生）
- ・ 14日 コーディネーター研修
- ・ 18日 メンター・メンティ研修（集団づくり…運動会前後のクラスづくりについて）
- ・ 29日 運動会…足はやチャレンジの集大成でもあった。当日、虹を完成（4万2000以上のシール）させ、完成した虹の下をくぐって子どもたちは帰った。
- ・ 11月7日 2年国語研究授業
- ・ 8~14日 校外学習…3年ぶりの秋の校外学習
- ・ 16日 4・6年 国語研究授業
- ・ 19日 土曜参観…3年ぶり。制限なしの参観実施。
- ・ PTA「うきうきフェスタ」…地域の色々な方の協力を得ながら実施。これも3年ぶり。
- ・ 21日~ TLウィーク（相互参観授業）2週間
- ・ 25日(金) 府SCによる出前授業「アンガーマネジメント」（3年）
- ・ 30日(水) メンター・メンティ研修…テーマ「研究発表」について
- ・ 12月5~9日 個人懇談・校内図工展
- ・ 7日(水) 摂津市市学力定着度調査（1~6年）
- ・ 9日(金) 三中校区青少年対策連絡会

2. 全国学力学習状況調査 結果概要について

校長：今年は理科の教科が増えての実施となった。配付した資料は、結果概要をまとめて保護者に配付したものの。1枚目に国語、算数、理科の結果をまとめている。

本校の正答率については、国語は全国比で1.07、算数は全国比1.08、理科は1.07となっており、全国の正答率をいずれも上回った。平均でいうと、全国、府、市に対して全ての教科で上回っているが、個々で見えていくと、成果もあれば課題もあった。

新聞に問題文が掲載されていたが、いずれの教科において問題文がとても長い。初めて見る文章の内容をきちんと理解したり、何を問われているのかを読み取ったりする必要がある。

また、生活に結びついている問題が多く、活用力が問われる形である。

本校ではMIMで初見の文章をまとまりで読む力、流暢に読む力の育成について取組みを進めているが、その成果が出ているのではないかと考えている。

漢字については今まで本校の課題であったが、「ミチムラ式漢字学習法」(漢字の部品を唱えて覚える漢字練習法)を取り入れて3年目。正答率が上がった。引き続き取り組んでいきたい。

毎朝取り組んでいる読書タイムも含め、継続して取組みを進めていきたい。

2枚目の方は質問紙調査の結果。

「将来の夢や目標を持っていますか」の質問項目に対して、本校では肯定的回答の率が低かったが今回は上がっている。

改善が望まれているのは「家庭学習」。なかなか時間が取れていないのが課題。改善に向けて自主学習ノートや家庭学習ウィークの取組みを進めているが、成果が出ていない。

結果としては、学力調査の結果は全国平均を上回っているものの、府と市の平均正答率と全国平均正答率の幅が狭くなっている。これらを加味すると、千里丘小としてはどうなのだろうか、と考えている。

後述する学校教育自己診断において“授業づくり”に関する項目については、評価が低くなっている、ということもある。日々の授業づくりということを考えて、決して安心できる状況ではない、と学校としては考えている。

委員 質問紙調査の項目については毎年同じなのだろうか。「学級活動における学級での話し合いを活かして今自分がすべきことを決めて取り組んでいますか」という質問については、具体的に分かりにくいように思う。

校長 質問項目は毎年同じ。確かに、どうとらえるのか難しい質問。

委員 そうであれば、アンケートを行う際に具体的に補足説明してやれば「そういうことならやっている」と児童もピンとくるかと思う。もしかしたら、実際は取り組んでいるのに「いいえ」と答えている児童がいるかもしれない。

アンケートというのは質問自体が“こういう取組みをして欲しい”というサジェスションになっていることが多いと思う。質問に合わせた取組みを進めていけばいいのかな、と思う。家庭学習が低いのは、千里丘小学校の伝統だと思う。

委員 点数に一喜一憂するのは良くない、というのがよく言われるが、その通りだと思う。マスコミでよく取りざたされる”全国都道府県別ランキング”では、大阪は常に下位にいたが、大阪府の正答率が全国平均に迫りつつある。コロナ禍は「全国学力調査の結果に影響を与えていない」と言われて

いるが、授業や学びが画一化・平均化している。それを良いと思う半面、地域性や創意工夫が無くなり面白くなってきているようにも思う。点数が上がることは子どもの自信にもつながるので、それに越したことはない。ただ、その中身を見ていながら、千里丘小の子どもに何が必要か、千里丘小の子どもをどう伸ばしていくか、という視点は持つておく必要がある。AIが人間を凌駕するのが間近と言われている中で、「生きる力」となる真の力をつけることに尽力して欲しい。だからこそ「夢と希望を持てる」など、点数に現れない部分で教育の充実を図って欲しい。

校長 マスコミで「コロナ禍の影響を受けていない」という報道は私も見た。今の6年生は低学年時においては、通常の教育活動を行っていた。しかし、入学時点からコロナ禍での教育活動しか受けられていない現在の低学年の児童についてはどう影響が出てくるのか、非常に気になっている。日々の状況を見ていると心配ではある。

委員 「テストの点には影響がない」というだけであって、教育の中身そのものに影響がない、とは言えないと思う。今の子はマスクをした状態で目だけを見て人間関係づくりをしているが、人は顔全体の表情で自分の感情を表すものだ。感情を読み取るとか、理解するということがなくなっている。特に低年齢の子が突然暴力をしまったり、逆に怖がってしまったり、ということなどを考えると、人間力の育成については大きな影響があると思う。

委員 校長は「千里丘小の平均と府の平均を考えるとどうか」とおっしゃっていたが、市の平均を引っ張っていったのは間違いなく千里丘小だろう。千里丘小の点数が悪かったら、市の平均ももっと低いはず。“テストの点数だけで言う”ということはなるが、素晴らしいと思う。

校長 理科の実施は久しぶりだったので、どのような結果が出るかな、とは思っていたが、理科も上回った。学習内容を生活に結びつけたり、体験を通して学んだりすることが大切だと実感している。

委員 教育委員会の評価はどうか。

校長 教育委員会は、学校の取組みとして評価するというよりは“千里丘小校区の地域の力”を評価する部分が大きく、学校が努力している部分はヒアリングでもあまり聞いてもらえない。しかし、取り組まないとこれらの成果は出ないと思っている。調査についても一生懸命分析して、課題から取組みを進めているのだが…。取り組んだ内容について評価して欲しい、という思いはある。

委員 今、校長が「国語の力が理科などの他の教科にも生きている」とおっしゃったが、その通りだと思う。教員は真面目で、一生懸命に取り組んでいる。現在、行っている研究や取組みに対して委員会が評価をしてくれたら、もっとモチベーションアップにつながるのでは。

校長 教員がモチベーションを高く持たないといい授業にならないし、いい授業ができなかったら子どものモチベーションも上がらない。校内では取組みの効果についていろいろ話をしながら、取組みを進めていくことが大事だと思っている。

協議の内容はHPにも載せて発信していく。何かあればご指導いただきたい。

委員 最後に一つだけ。国語、算数、理科、全教科において正答0問が一人もいないのは嬉しいことだ。かつては問題に全く取り組まない児童などがいたものだが、そんな児童がいないということは良い。

3. 学校教育自己診断

校長 学校教育自己診断アンケートを実施した。質問項目は昨年度の学校協議会でご意見いただいたことを反映し、「楽しいか楽しくないか」を問う形式を変更したり、今年学校として取り組んだこと

を問うようにしたり、と質問項目は変更している。また、経年経過を追うためにスタンダードに継続して聞いている項目もある。学校として考えている項目をそこに挙げている。

調査期間は11月29日～12月11日。調査対象は、児童は4～6年生、保護者、教職員については全員。回収については、Google フォームを活用したが、何度か呼びかけてお願いすることで100%近くまで上がった。

全ての質問項目に対する回答の結果一覧と、その中から意図的にいくつかの質問項目をピックアップしてグラフにまとめたものをお配りしている。どういう意図で選択しているのか、教頭の方から詳しくご説明する。

教頭 学校経営計画の3本柱の①安全・安心できる学校づくり②確かな学力・体力を育む学校づくり③信頼できる学校づくりに沿ってまとめている。その中で、学校が力を入れて取り組んでいる内容をピックアップしている。

最初の「学校が楽しいですか」という質問項目については、学校教育に関わる項目と考え、100%の肯定率をめざしたい項目として載せている。

安全・安心な学校づくり、生徒指導体制、相談体制については、肯定的な回答が多かったものと併せて、いじめなどの保護者の意識の高い項目、昨年度より改善した項目もピックアップした。特別支援教育は本校で大切にしているものなので。

2枚目は学力・体力づくりに係る項目になっている。本校は国語を中心に研究を進めているが、授業を作っていくうえで大切と思われる項目を3つ選んでいる。本年度は「足はやチャレンジ」の取組みを進めてきたが、それについては体力向上、生活習慣の改善に向けた取組みとして2つの項目を選んだ。

信頼できる学校づくりとしては、ここ数年発信に努めてきたことを受け、それについてまとめた。

校長 今申し上げた観点で選んだ項目がここに掲載されている。1番目の質問については、昨年度の学校協議会でも協議に上がった項目。「肯定率が高い」と評価するのではなく、「楽しいと思っていない児童が1割以上いることは注目すべきではないか」という意見をもらった。昨年度に比べて少しは向上したが、改善とまでには至っていない。楽しくない理由が何なのか、このアンケートでは測りかねるが、人間関係なのか、学習が分からないのか、いずれにせよ、クラスの1割に上る児童が「学校が楽しくない」と考えている実情を学校は厳しく受け止めて、今後一年間取り組む必要があると考えている。まずは、「安全・安心できる学校づくり」についてのご意見をお伺いしたい。

委員 100%の肯定率をめざしたいのであれば、「楽しい」理由を書かせてみると良いのでは。

校長 以前、「諦めるのではなく、高い目標をめざすことで実現する」ということを伺ったので、学校としてもそう考えるべきではないかと考えた。理由については、また検討する。

委員 「学校が楽しい」ではなく「家の方が楽しい」という理由もあるかもしれない。

委員 楽しいときと楽しくない時があるのではないだろうか。物事は大体そうだ。もちろん楽しいときが多い方がいい。色々な取り方があるが、10日の内、9日は楽しいが1日が楽しくなくて、その1日にアンケートの日が当たってしまった、ということもあるかも。「楽しくない」と感じたその理由を考えながら指導に当たっていくことが大切。「楽しくない」と感じる事が完全にダメなわけではない。「楽しくない」と感じる理由を聞きだして、その子たちが満足するためにはどうしたらよいか、考えていけばいい。結果、嫌なことが楽しいことの印象を上回ったらいい。

アンケートで書きにくいかもしれないかもしれないが、学級会で議題になり得る項目だ。高学年対象のアンケートであることだし、学級会の議題として取り上げ、話し合ってみては。

委員 「学校が楽しくない」が11.5%、「千小っ子運動タイム」「足はやチャレンジ」等の体力向上の取組みが大切だと思っていない児童が11.6%となっており、極めて近い数字だ。同じ層だとしたら…。取り組む中で、嫌な子は何をやっても嫌。だが、そこをどう取り組むか、で取組みが進むかどうかだと思う。その子らに何ができるだろうか。できれば違う層であって欲しいが…。

委員 「足はやチャレンジ」など具体的な取組みに対して嫌なのか、もしくはただ単に家で過ごす方が楽しいだけなのか、全員が全員書かなくてもいいが、記述欄を作ったらどうだろう。

委員 クロス集計をさせてみたら相関関係が分かる。やってみるといいのかも。

校長 アンケートのとり方が「思う」「思わない」だけになっているので、来年はアンケートの取り方を工夫したい。

委員 100%をめざすことは悪いことではないと思う。中身の見方を考えたらいい。せっかくの結果だ。

校長 2枚目は「確かな学力と体力を育む学校づく」に関連して項目が並んでいる。授業づくりについて3項目取り上げたが、結果としてはあまり伸びていない。「分かりやすい授業」については児童も保護者も低下している。一年間取り組んできたことをきちんと振り返る必要がある。学校としては取り組んできたが、徹底が弱かった、と感じている。読書タイム、国語の授業研究、話し合い活動、音読の取組み、など、各クラスの取組みが実際のところがどうだったのか。

6月の学校協議会で授業も参観していただいたが、半分近い教員が初めて担任を持つ状況にあった中で、なかなかついてくることができなかつた現実もあり、反省点がある。経験の少ない教員もいる中で、どう育成しながら学校全体の取組みを向上させていくのが課題。

学力は学校の本分でもあるので、この結果については考えさせられる。

委員 そう感じるのであれば、学級ごとの分析をするべき。初めて担任を持つ人の授業に対する評価がどうだったのか、個別に検討したらよい。クラスごとに大きな差があるのであれば、そこは改善すべきであり、メンター研修などでも取り組む必要があるだろう。経験年数によって、力量差はあってしかるべき。その差を公開したり、突きつけたりするのではなく、低いのであればそこに力を注ぐようにするべき。経験のある教員から経験の浅い教員にノウハウを伝えていき、研修などで補っていく必要がある。かつてはそんな文化もあったが失われてきている。そこを校長は課題と考えて研修を実施しているのだろうと思う。

校長 授業づくりは難しい。若い人は目の前のことばかりにとらわれたり、マニュアルに頼りがちになってしまう。その部分をどうしていくかが難しい。

委員 「分かりやすい授業の工夫」という項目について、教員の肯定率が8.1%低下している。3人くらい、そう感じる人が増えた計算になる。児童や保護者よりもよくよく考えての回答だと思う。フォローをしてはどうかと思う。

体力向上はすごく上がっている。去年は伸び悩んでいたのが良かった。

校長 「楽しい」「楽しくない」を問うのではなく、大切に思うかどうかを聞いたら、向上した。

朝食も一時喫食率が落ちた時もあったが、向上したので良かったと思う。問い方も悩んだ。質なのか量なのか「十分な」なのか「バランスよく」なのか。

「足はやチャレンジ」については、保護者アンケートでの自由記述には「もっと続けて欲しい」と

いう肯定的な声が上がっていた。生活習慣は家庭との連携が重要なので、そこは良かった。

委員 千里丘小学校は府に対しても市に対しても誇れる学校になってきていると思う。学力調査でも一定の成績を残しているし、特別支援教育に関しても府でモデル校になった。学力だけでなく体力健康づくりについても取組みを進めている。ただ、やればやるほど委員会や担当者が増えていく。また、担当者レベルのみの取組みになりがち。

教職員対象のアンケートについて見ると、「学校として」「全体として」「教職員間で」と問われている項目の肯定率が落ちている。成果は出ているのに「教職員みんなで取り組んでいる」という意識に至っていないのではないか。学校が回らなくなっていくと、バラバラになってしまう。学校は横のつながりと縦のつながりがないといけない。教頭や首席が中心となって縦横斜めの関係を作っていくないと、取組みが全体化しない。結果、学校全体の充実感、達成感につながらない。目的を共通理解し、一緒になって考えていかないと、財産にならない。担当者が転勤したら、校長先生が代わったら、取組みが終わってしまったりする。

今、取り組んでいる内容を財産化していくためにも”みんなでやった”という充実感、満足感、達成感を大事にしてほしい。組織を見直していくことが大切。

校長 今後、検証をして再度見直しを進めていく。

4. その他

教育政策課より 松田教育政策課長 井上総務係係長 星野

校長 来年度、本格的な改修工事が始まっていく予定。教育政策課とは頻繁に会議を行い、学校の思いを伝えながら計画を立てているところ。長い期間をかけて全面的な工事を進めていく予定。学校として要求していることは次の4点。

- ① 児童数の増加に対応した環境を確保して欲しい。
- ② 工事が最後まで子どもにとって安全であるように進めて欲しい。
- ③ グラウンドやプールの改修に伴い環境が変わる中で、教育課程が保障されるようにして欲しい。
- ④ 地域にとっての学校。新しく生まれ変わる学校となるようにして欲しい。

教育政策課から進捗状況についての説明をいただくにあたって、今後、学校の校長として工事に関してどう要望を伝えていったらいいのか、皆様からご意見をいただきたい。

松田 令和元年度から、撰田校長より様々な思いを聞かせていただいている。教室数を確保するにあたり、令和2年度に人数の推移予測を行った。折しもJR西口で進めている開発も発表されたところであり、35人学級の施策も発表されたこともあって、学童も含めた児童最大数の調査を行った。その結果を踏まえ、令和3年度に通学区域審議会を実施。校区を再編するのか、千里丘小学校を敷地内で改修するのかを審議する場を設け、たくさんの方からご意見をいただいた。その中で、通学区域を変えず、通学途上での安全面の確保を考え、敷地内での建て替えを進めていく方向性となった。現在はそれに沿って計画を立てているところ。

工事期間はもちろん、子どもの安全確保を配慮して進めていきたい。今後、地域の皆様にも報告・説明を行いたいと考えている。まずは担当の方から資料をもとに説明させていただく。

井上 資料に基づき、現在の進捗状況について説明差し上げる。

現在400人程度の児童数であるが、令和10年には800人を超え、ピーク時には900人を超え

ると推計されている。ピーク時にも対応できるような教室数を確保できるよう計画している。基本設計を終え、現在実施設計を進めている状況で、まだ詳細をお伝えできる段階ではない。今日は想定される校舎の配置図、外観のイメージ、スケジュール等を資料としてお持ちさせていただいた。

(1) 配置計画について

現状と同じく北に校舎、南に運動場を配置する計画（建て替えの際のグラウンド確保や、日当たりの状況を鑑みて）。

正門も現状と同じく、安全面を配慮して校庭の南側に設置。現在、正門をくぐった後に校庭を横切って校舎まで歩いているが、舗装歩道を作る計画。

東門の動線は、給食など業者の出入りが中心となり、児童の動線とは分けた形で進めている。

地域に開かれた学校であるために、地域の方が利用できる会議室などを施設の西側に取り入れ、地域の方にも使っていただけるようにする予定。スロープなども設置しアプローチしやすくする配慮と同時に、職員室などのセキュリティも確保していく。

増築校舎Ⅰは4階建になっており、1階が給食室、2,3階は体育館（700㎡、今の1.7倍の広さ）となる予定。また、屋上にはプールを設置する計画。

校庭も現状より1,000㎡広く取れる予定（6,000㎡）。

(2) 工期について

工期が非常に長くなっている。

R5年08月～ プールの解体⇒給食調理室の改修(R8まで対応できるよう)

R5年11月～ 仮設校舎の整備（プール～芝生のエリア、2階建て）

R6年11月～ 本体工事開始（東側既設校舎解体）

R7年01月～ 増築校舎Ⅰ建設開始（体育館、プールはR8年度から使用可能に）

R8年 4月～ 北西の既設校舎・体育館の解体⇒増築校舎Ⅱの建設⇒仮設校舎解体

R9年 末 工事完了

全ての工程が学校運営を行いながらの工事となる。工事ヤードを十分に取り、安全を確保しながら工事を進めていく。工事期間が長期となり、教育課程にも多少影響が出てしまうが、引き続き実施設計を進めていくうえで教育委員会、学校と連携を進めながら、よりよい学校となるように検討を進めたいと考えている。

また、保護者・地域の皆様には来年の1～2月にかけて説明会を行っていく予定。

校長 一通りの説明を受けたところであるが、ご意見、ご質問があれば。

委員 体育館は新しい校舎ができてから古いものが解体される、ということで良かったと思う。プールはどうなる？

井上 プールについては来年度の夏、水泳指導が終わってから解体を進める。しかしながら、プールが解体されてから新校舎に新しいプールができる令和8年までは、プールが学校にない状況になる。教育課程に影響が出てしまうため、代替措置については学校教育課を中心に考えているところだ。詳細についてお返事は現段階ではできないが、できるだけ教育活動に影響が出ないようにしていきたい。

委員 やはりプールのことが気になる。令和6年度、7年度、水泳指導が学校ではできない状況。他校

に行くのも一つの案かもしれないが、立地上時間がかかって難しい。他校の児童も授業を行っている中で、その中に組み込むのも厳しいと思う。

例えば温水プールに行くことも選択肢にあるかと思うが、それでも移動時間が大幅にかかる。移動時間は体育の時数にカウントできず、結局は他の教科の時間に影響してくる。

今、答えは言えないと思うが、十分に協議して進めて欲しい。最近、学校教育課は“余剰時間がある”と言っているようだが、万が一感染症などの影響で学校・学級が閉鎖することなどがあれば、教育課程が実施できないということも起こってくる。教育というのは、質と量と、両方保障しないといけない。よく考えて欲しい。

校長 まさしく、体育の授業が気になっている。グラウンドも十分な広さが確保できなくなった時に、様々な活動がきちんと確保できるのか心配。グラウンドはまだ工夫できても、プールは工夫のしようがない。代替の場所を確保しても最大のネックになるのは移動。安全に子どもたちを移動させること。移動中の安全確保にあたっては、引率者など、難しいところだ。

委員 送迎バスなどはないのか。

校長 学校にはバスはない。教育委員会で手配していただくことになる。

委員 送迎バスで移動するにしても、移動時間などを考えると厳しい。

委員 民間のスポーツセンターや岸辺の温水プールなど、お金がかかるとは思うが、千里丘小学校の児童のために予算は付けていただきたい。

委員 日々の体育の授業のこともあるが、運動会も心配なのでは？現状の体育館はとても狭い。運動場で行う授業を体育館で実施することも難しいし、2クラス同時の授業も厳しい。

校長 今のクラス数だと時間割も組めるが、クラス数が増えたとどうしても場所が重なってしまうのが課題。

委員 明和池公園や市場池公園などを優先的に使わせてもらい、プールも2時間連続で実施するなどしないと難しいのかも。仮校舎をエネゲートに建てさせてもらえたら、プールやグラウンドの確保もできると思うが、どうだろう。

松田 難しい。今までも新型コロナウイルス感染症や猛暑の影響で、水泳指導の実施が難しい時があり、その際何かできないかと様々な検討を行った経緯もあるが…。現在、民間施設なども含めた検討は進めているが、こうとは申し上げられないところ。決まればその都度お伝えしていく。

委員 仮設校舎を何度も建てたり壊したりせず、1回だけで済むのはメリット。

井上 最初の検討では2回仮設校舎を建てることも検討したのだが、工期も短縮する意味でこのような形とした。

委員 グラウンドがダイヤモンド型でトラックが斜めになっていることについてはどうだろう。長方形や正方形であれば、運動会を行う際もやりやすい。斜めにトラックをとると活用しにくい場所がしやすい。鳥飼西小学校がそう。面積はあっても、うまく使えない。遊具や児童の動線などを考えながら進めていく必要がある。

千里丘小学校は現在、体力の育成に力を入れている。体育の取組みを継続していくためにも、運動場の作り方については十分に検討する余地があると思う。

校長 150mのトラックを要求した結果、こんな形が提案されてきた。

委員 摂津市がたまたま150mトラックを採用しているだけであって、トラックを小さくすることがダ

メではない。連合運動会もないから、他校と比べてトラックの大きさを気にすることはないだろう。しかし、運動会などの行事をするにあたってどうなのだろう。

井上 グラウンドのレイアウトも現在まだ検討中でまだ変更可能。本日いただいた意見を参考にしながら、遊具エリアや遊歩道のあり方、トラックのとり方なども、学校と協議の上、再検討していきたい。

委員 トラックを小さくするとカーブがきつくなり、曲がり切れなくなってケガが増える。特に大人。地域に開放するのであれば、そこも加味する必要がある。

外観はまるで私立学校のように。桜の木を残していたり、今の学校も引き継いでくれたりしている。

委員 気になるのは、やはり運動場の話。歩道橋との兼ね合いもあるが、例えば愛育園よりも正門を持ってきたら運動場は広がるが…。

井上 おっしゃる通り、歩道橋の階段の向きとの兼ね合いが悪く、正門の位置は現状と同じ場所になっている。どこをどう折り合いをつけるか、難しいところ。

委員 きれいな校舎でいいなあ、と思った。プールのことなどはあるが、マイナスな面はあまりない。ただ、保護者に説明するときはデメリットもきちんと最初に説明した方がいい。後は、率直に“工期が長い”と思った。大半の保護者もそう思うはず。そこはきちんと説明された方がよい。

委員 プールと運動場の問題は、100%解決できない問題。納得いくような解決策はない。ある程度の部分は我慢してもらうしかない。そう伝えていくしかないと思う。

委員 説明の際は言葉を選んで、強い気持ちをもって、未来に向けて話をしてもらえたらと思う。

委員 令和6年、7年の2年の我慢がすごい。我慢の先に、良いことがあると思えると良い。仮設校舎は意外といいし、学びやすい。そして、今の校舎に比べたら未来の校舎はずっといい。メリットをしっかり伝えて欲しい。また、令和8年度から体育館が使えることは大きい。もし令和7年度の卒業式に体育館が間に合えば、「2年間我慢した」ではなく「1年ちょっと制限があった」という感覚になる。未来に向けてこれから50年間の千里丘小学校は素晴らしい学びになると思う。

委員 おっしゃったように、卒業式が間に合えば、心証はずいぶん違うと思う。

委員 新しい体育館はどこにできるのか？

井上 新しい校舎の2階になる。

委員 大きな校舎を壊すとき、地域の皆様に迷惑がかかる。今後、地域に愛される学校になるために、説明、周知徹底をきちんとして欲しい。

委員 旧味舌小学校の解体の時も大変だった。期待が大きい分、担当課は大変だと思う。

委員 貴重な文化財が出たら大変。

委員 千里丘小学校は、以前は池沼だったので大丈夫だろう。

校長 皆様からいただいたご意見を受けて、協議を進めていく。

5. 次回日程

今回は1月20日（金） 18：30～